

南極・北極科学館のオーロラシアターがリニューアルオープン！

JJ1SXA/池

通称「極地研」(大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所/立川市緑町10-3 (042-512-0608)内にある「南極・北極科学館」の人気展示、「オーロラシアター」が「TACHIHIオーロラシアター」にリニューアルされました。

…投影機を入れ替え、解像度、明るさ、コントラストが大幅にアップし、わずかに輝く繊細なオーロラも、天頂からダイナミックに降り注ぐ激しいオーロラも、それぞれの美しさを存分に味わうことができるようになりました！…と発表されています。

以下は、南極・北極科学館広報室長のインフォメーションです。

…南極や北極でどんな観測や研究が行われているのだろうか？どんなことがわかったのだろうか？どんなところなのだろうか？等など“南極、北極の今”を皆さんにお知らせする広報展示施設として、国立極地研究所南極・北極科学館は、2010年7月に開館しました。

新たな発見や研究成果は、わかりやすくポスターにして迅速に張り出しています。また、多くの皆さんに極地科学と極地観測のことを知ってもらうために、展示には三つの工夫があります。

その一つは“実物”を展示していることです。南極観測で使用していたもの。今も使用しているもの。そして、今後の観測計画によっては展示から外して南極に持っているものなどもあります。もちろん、標本は実物です。

二つめは“さわれる”ことです。地球外物質(隕石)や南極の氷にさわれます(もちろん実物)。偏光顕微鏡で隕石や岩石の観察もできます。そして、1968年(昭和43年)に南極点まで往復5,200kmを走破した雪上車(ほとんど当時姿のままです)にも乗れます。

三つめは“映像”です。昭和基地のライブ映像を見ることができます(オーロラがライブで見られることも)。オーロラの映像は、全天ドーム型のオーロラシアターで研究用に撮影したオリジナルデータの映像を月替わりで見ることができます。南極と北極のオーロラを1年中常設展示で見ることができるのは国内唯一です。

オーロラの謎を解き、ペンギンの写真を撮り、南極点まで往復した雪上車に乗り、顕微鏡をのぞき、生き物を調べ、隊員の生活をモニターでチェックし、南極の氷にさわり、大気摩擦で表面が溶けた隕石に触れ、月の裏側の石や火星の石を見て宇宙の旅を感じ…必ずや知的好奇心が満足させられることでしょう。…

近くにこんな立派な施設があるのに、まだ行ったことがありません、今度暇ができたら(年中暇だろうとの声が聞こえそうだが…)行ってみようと思います、入場無料、撮影自由は魅力です。



- 立川バス/立川駅北口2番乗り場「大山団地方面ゆき」「東中神駅方面ゆき」→立川
学術プラザ下車で徒歩1分
立川駅北口1番乗り場→立川市役所下車で徒歩5分
- 多摩モノレール/立川北駅→1駅目の高松駅下車、徒歩10分
- JR立川駅北口から徒歩でおよそ25分